

永瀬清子と鳥越ゆり子

——最晩年の二冊のてのひら詩集そのほか

会期 2021年9月3日(金)～12月12日(日) (会期延長しました)



永瀬清子『永瀬清子の詩 老令の記念に』
鳥越ゆり子氏作成 1994(平成6)年1月

「まあ、いろいろ、あった」というのはほんとうに実感的で、永瀬さんの女の一生はみごとに、この言葉に集約できるのだと思う。
(鳥越ゆり子「水分の源郷」『すみれ通信』No. 97 1990(平成2)年10月より)



永瀬清子『永瀬清子の詩のころ そして詩』
鳥越ゆり子氏作成 1994(平成6)年10月

時間 午前9時～午後5時 **休館日** 月曜日 **入館料** 無料
場所 永瀬清子展示室(赤磐市くまやまふれあいセンター2階・岡山県赤磐市松木621-1)
※赤磐市立中央図書館1階の歴史コーナーで、本展示の資料等の一部を複製し展示しています。

岡山県博物館協議会 30周年記念事業

博物館めぐりスタンプラリー 令和3年7月1日～11月30日

- ①スタンプを集めよう!!
期間中、備前・備中・美作の各地区のうち、2地区以上をめぐってスタンプ4個を集めよう。
- ②プレゼントをもらおう!!
4つ目の館でまずはオリジナルポストイットをゲットしよう!
(プレゼントには限りがございます。無くなり次第終了となります。)
- ③Wプレゼントを応募しよう!!
4つ目の館に応募用紙を提出してください。

問い合わせ先

赤磐市教育委員会熊山分室

tel **086-995-1360**



新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止や延期、内容変更となる場合があります。会場内ではマスクの着用や手指の消毒等、感染予防策にご協力をお願いいたします。発熱等の症状がある場合や、ご体調がすぐれない場合は、ご来室をお控えください。

◆交通案内



◆山陽自動車道
◆山陽・和気ICから車で約15分
◆JR熊山駅から徒歩約20分

永瀬清子展示室

検索

初公開

晩年の永瀬清子は、後に続く人々に支えられながら詩作を続けていました。この展示では、永瀬清子を支えた鳥越ゆり子氏との交流と、そこから生まれた二冊の詩集を紹介いたします。さらに、鳥越ゆり子氏から提供された最晩年の資料（複製）を初公開し、永瀬清子が私たちに託したメッセージを読み解いていきます。

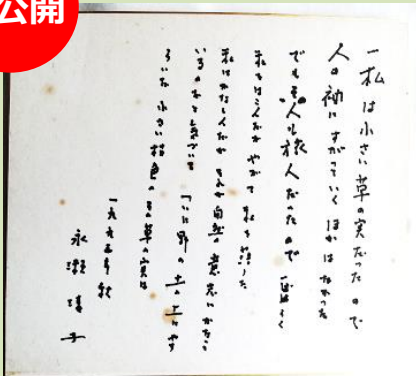


原稿「かえりみて」（複製） 鳥越ゆり子氏提供
副題に「1994年9月23日」の日付があり、詩を書く人々への遺言のように読める散文。詩集『永瀬清子の詩のこころ そして詩』に掲載され、詩誌『黄薔薇』143号（1995(平成7)年7月・永瀬清子追悼号）に全文が再録された

やがてもう絶対にペンをとれぬ日が来た時、「ここまでは書いてくれたのか」と人々がにっこりしてくれること。
「元氣だして自分たちもあととつぐよ」と云ってくれること。それは詩の道は遠いから、限りなくつづく筈だから——。

それを願っていたのだ。
（永瀬清子「かえりみて」『永瀬清子の詩のこころ そして詩』）

初公開



色紙「草の実」（複製） 鳥越ゆり子氏提供

1993(平成5)年10月16日に岡山市オリент美術館で開催された「谷川俊太郎 永瀬清子朗読会」の舞台で谷川俊太郎氏に渡された色紙2枚のうちの1枚。この朗読会は、清子が出演した生前最後の会となった。

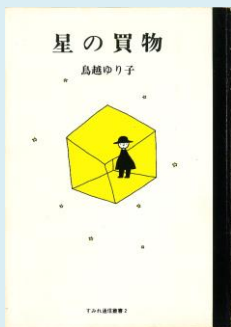
永瀬さんと話しながら、わたくしは「永瀬さんのように生きられたら」と強く強く思いました。「この人についていこう」と。
このとき、永瀬さんは七十六歳、わたくしは三十歳でした。
※鳥越ゆり子氏は、一九八二年四月一日に岡山市半田山植物園ではじめて永瀬清子と会った



『すみれ通信』No.37 1984(昭和59)年7月
永瀬清子の連載「植物このふしぎなもの」の第1回を掲載。「自然はいつも自分のほんとの姿をさりげなくみせてくれる。そして生きることにそれぞれ一所懸命で、心打たれるのだ」と、植物への共感と深い関心を述べたエッセイ。表紙は、足立義弘氏による。

鳥越ゆり子（とりごえ ゆりこ） プロフィール

- 1952年 岡山県倉敷市生まれ
 - 1981-1997 雑誌『すみれ通信』創刊 123号まで出す
 - 1982 小説集『べんべん草日記』（すみれ通信舎）
 - 1986 エッセイ集『星の買物』（すみれ通信舎）
 - 1987-1995 同人誌『女人随筆』に参加入会
 - 1989 小説集『幼女記』（手帖舎）
 - 1992 小説集『魂の咲く村』（すみれ通信舎）
 - 1996 詩集『音素砂丘』（湯川書房）
草歌集『薔薇星雲まで』（湯川書房）
 - 1998 絵画展『宇宙樹の世界』（大阪・マサゴ画廊）
 - 1999 絵画展『くる』星記（長野・ヘンリーミラー美術館）
 - 2000-2003 絵画展（京都・志摩画廊）
 - 2004-2016 絵画展（京都・ギャラリーいちかわ）
 - 2017 「鳥越ゆり子 野草譜 100展+プラス」（京都府立文化芸術会館）
 - 2018 絵画展〈感情細胞〉（京都・ギャリエ・ヤマシタ）
 - 2019 詩と絵展〈内なる水源〉（京都・ギャリエ・ヤマシタ）
 - 2020 詩と絵展〈一番しずかな処〉（京都・ギャリエ・ヤマシタ）
- 永瀬清子詩集、山南律子詩集、たなかよしゆき文集等の編集にたずさわる
その他、各地で詩の朗読会を開催
関西・金子光晴の会主宰 憲法研究所賛助会員 笑郷「まほろば」会員
日本美術家連盟会員ほか



鳥越ゆり子『星の買物 すみれ通信叢書2』
すみれ通信舎 1986(昭和61)年8月
『すみれ通信』に連載したエッセイ他を収録。本書の題名「星の買物」は、清子による命名。装幀は成瀬政博氏による。